KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

特別
〜5
5814

川越千句

文明二年正月十日　於山田

作者　心敬　道真　宗祇　中雅　印孝

鈴鹿敏　永祥　義藤　修茂　淄四郎

山下長利　興俊　重原入道　幾弘

46-598

文明二年正月十日於山田

発句　中雅

[illegible]

文政二年正月十日出山

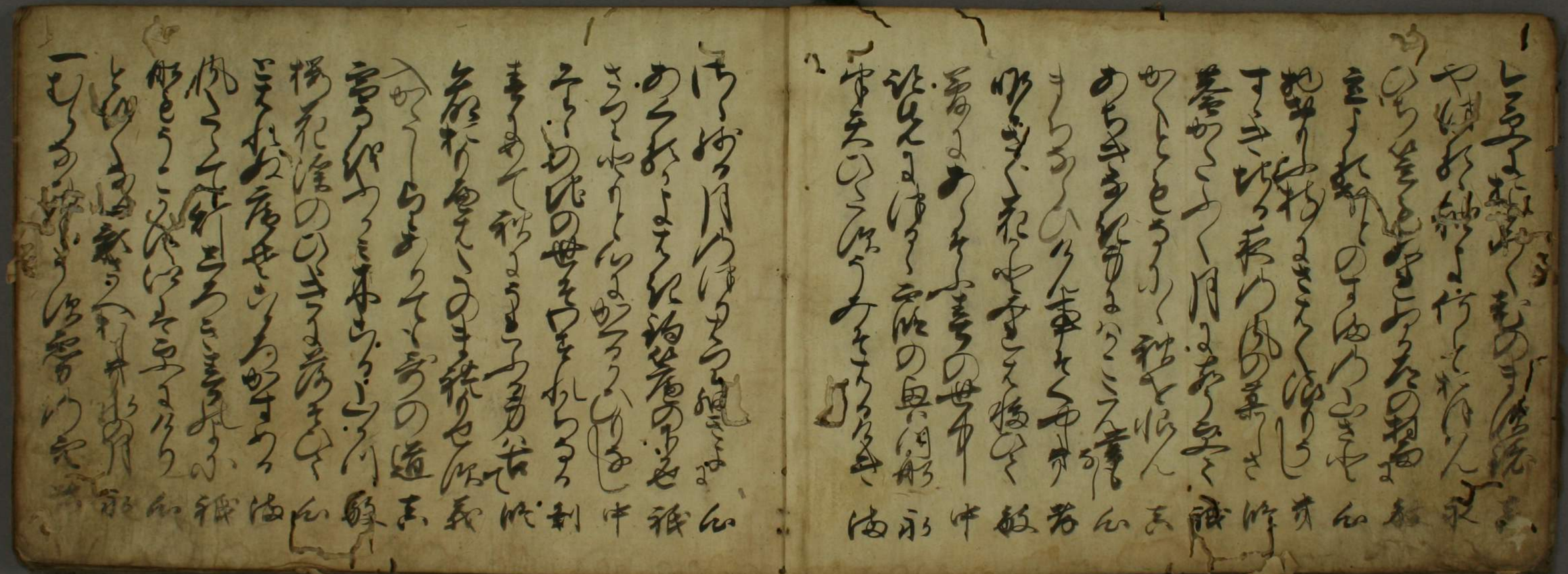
朔何中

46-598

[illegible]

[illegible]

[illegible]



何人　廿二

夏さ海すゞし秋の露深て　若

山もとの紅葉に川をつゝむ　心

人しれぬ心のおもひに松のしも　剣

かれはてゝ人のこゝろも色に　中

何事も世をはなれて秋も　於

あまりにやさしき月の夜に　戒

さつきの事もたゞよひのまゝに　若

をしやすきこの山川のなかに　毛

たりとはの空も流れ行　敏

たそかれの月そよき世の浮　若

我身にもあさきあそひを　心

ふかくて跡もかやと　永

ゆふこきてかすみも鐘もさびし
かよひ路まてなお花をとらん
常はかくてしも御跡への
さびしやとまた夢の中ら
若みけり独ゆくよの船のうち
妹めいたるの猿のさもしろ
うき秋の月かくさるを雲なく
松もちうき秋の山さしそ
稲葉こふ思ひへのやどる露の
様くにけりうつせてくら
恥のふのあふうたけり
まかるとも松のよ
縁もうらみいけうけらん
晴上とみよりのゆきの露て

仁 紙 志 海 仁 中 仁 荒 紙 海 志 仁般 於 斉 紙

はくさの山をむらの暮
よ形とくちよあるる花の橋
まつさえ言こと言ハ姿の
風はなくさ深くとあらぬあさ
様ふし出ん宿なりかり
古への老そうつらい望く
猶むかしとは月ともみらん
宮まうふ前さ遠き露
秋もみふつりの橋
あかさ松もちきの音の
いはのせの波よおらん
かくておつらんもちつて
うきのあまのうふ船さ
仁う紙のつき法の庭やや

志 海 般 仁 義 紙 斉 平 仁 於 剣 鎌 に ま

若菜摘つみ仏やりみよ　般
左手まて宿乃ミ山のかさ踊て　祇
むしろそ床小さしよ経秋　洞
きのふく御神まて寸ろより要　秀
かおより候さらしく　仙
霰まて小細のせく　祇
北小一もと北のあけ　堆
ちり幸はそ重世煙　仙
さびしれ花の宮さと候　若
ちらろ風とかよう露　中
はえてやしから尋の節　沢
桜もえやまるたまちく　剣
人ゆく方ろ月やうかうらん　仙
さ神りの妻まつ山ち橋　祇

りうき四方の寺のさ　祇
おそれたのみとやうの袖の　洞
読み紀ひかみ谷の新　秀
あめもまそ宿ら鳴も海山　沢
西まぞいちく与　玉
おもひやまろ東の山を見　剣
をとつらの峰なるえ　仙
うら秋に三四　祁
なりひろしてなりいまさん　坤
いひて見あさひ新の松　若
みそや関たうきて御　秀
車とて梅の夜の袖の雪　資
ワかとのミや宿まうらん　般
守りの宿里秋の　兵

何船　すミ

[illegible]

夕日さし御堂の松ハ静まりて　若
山路ハ花もさくらさかれ　永
鉢たゝく樵の音に咲　與
よ命ともと思ふ心に誓ひ　志
宝ハいらむ世の内にある　祇
ころみる宿そくて世　若
墓ハさは鐘ある月めく雲　仙
又稚のくるり空ハすき御　中
緒にかゝる人の心や替さした　貞
めくる松竹むのとそ荒れ　放
かくひあつさ宮世をいそくさ　池
ますよふそすそ方ハ生移めん　中
おもれハも中宿る昔世て　祇
よ御飛に松鳥の露の雲　池

人ハ山さくらともの蕃らよふ　放
秋ハあるに在清水と瀬ん　仙
桜も先まかとそ宿の月　志
行ハ飛鳥か海ハ池の浦　池
おまへの方ともいふ世の給やうらん　祇
そのよふと我やかりきて　志
宮らん書いとふく清つゝへ　古
人ハそ海よふ夕暮の花　中
から山竜との細や山らん　放
すりよくるさ細り多　仙
月のかう雲よ風のさよ立く　祇
あさ歩の京ハよ世宇川出ろ　永
うき昔ハわすられ西丁ん　貞
末の藤ま西わけ秋雀　池

およふ色の野の鴫鳴て　中
ひとつ枝はくらひの山に　仙
秋[illegible]の年あまりの花の坂　吉
たしむもうはなやしく果　手
三てやい[illegible]をきとやさやき　司
うつきまてく[illegible]とも[illegible]　祇
語る世をさのこえていつてもむしん　敬
おそこよひも[illegible]の月　巻
文あきまて[illegible]のつ[illegible]　海
中ゐ色立霧をとあれ[illegible]　祇
青葉とも[illegible]まてて[illegible]　既
夜よふけてそいはつれまし　貫
来よ[illegible]岩[illegible]の[illegible]　仙
宮にそとくみゆり[illegible]　吉

さみ[illegible]風よりも[illegible]　永
いつとき[illegible]　仙
おつとなく花[illegible]　吉
三河[illegible]山[illegible]あさし　海
まつり[illegible]をつきさの道　義
さけまつる白河の船人　貫
おきとなる川[illegible]の音[illegible]　仙
夢の[illegible]月そこ[illegible]　中
空の[illegible]よ[illegible]文を　祇
うきこしそひとり[illegible]　既
さかつきの[illegible]世とはたらん　吉
かきくそつ[illegible]とけある　敬
をしへ[illegible]　海
嵯よ[illegible]の[illegible]　仙

人のかたりて小うの浦と申侍
秋をかけうる玉ぬきの
さしさうの色をとるやわらの内
ぬんぬ秋の月をきくふくろう 敏
月をやうの秋をとるうん 仙
雪ふりをもつ人ふつうの船 紙
ふるふと紙雪をはらへん 紙
ちやうをとさもしてすみこの海 敏
あ雪をうの梅の枝 永
ちとせきこの山の花 仙
信人の花と高き山の峰 仙
ひとへふるくるを紅ふかく 中
たちのやうをうの地蔵 敏
うはるまちんの別の 義

梅の上の山ふきの花 中
ふるの葉の花のうつき 紙
鳥の声も梅の雪 敏
人のさとのふるをとうる 永
わかふ月と海やかうん 志
ものかはきて私の秋りも 紙
ふるまて元ちのうつの海 紙
いと海ちの神しはうと 仙
ちふけうと船ふる雪 敏
何の雲しの海ふるう雪 永
むらの塩干北の海の雨 永
くうの穴をそれうの若 紙
秋やの西をこの月雪 仙
人やとひる神のかりけ 中

山かつはけさ霧もたちそめて　紙
金もかつよく沼のけさ　仙
明けぬ新しき　永
あかつきもたちこめ雲を　永
ゆきて沼の船つき　中
きりぬ　仙
川もものよりきつとやすらく　紙
沼ぬさ手枕の月をそこなう　敬

山何　すは

雪小沼のかつらの若
たりけりとゆく月はまて　永
暮よりと花をそなやすらん　紙
桂入る船に花をとりる　紙
内をとりよりかつらの　敬
雪をとりよりかつらの　敬
あきかつらの雪をとりて　仙
風に雪をはらはれて　仙
月をとりの秋　義

[illegible]夢の[illegible] 貞

[illegible]も[illegible] 與

[illegible]山の[illegible] 波

嵐の[illegible] 中

西川や[illegible]の[illegible] 羅

[illegible] 若

[illegible] 武

[illegible] 武

[illegible] 志

[illegible] 般

[illegible]神の[illegible] 仏

[illegible] 羅

[illegible]言 永

[illegible]の[illegible] 若

[illegible] 志

宇治川[illegible] 仏

[illegible] 才

[illegible]の[illegible] 羅

[illegible]の[illegible] 長

[illegible] 若

[illegible] 心

[illegible] 永

[illegible]の[illegible] 般

[illegible] 中

[illegible]の[illegible] 於

[illegible]山の[illegible] 心

[illegible]の[illegible] 才

[illegible] 由

[illegible] 紙
[illegible] 若
[illegible] 志
[illegible] 中
[illegible] 仙
[illegible] 紙
[illegible] 敏
[illegible] 志
[illegible] 仙
[illegible] 永
[illegible] 紙
[illegible] 寿
[illegible] 若
[illegible] 敏

[illegible] 紙
[illegible] 中
[illegible] 志
[illegible] 仙
[illegible] 紙
[illegible] 敏
[illegible] 志
[illegible] 永
[illegible] 心
[illegible] 敏
[illegible] 紙
[illegible] 寿

萬の事ふ者色むりて紙仏
ゑかしとおもふ物をかくあ和
ずと雖おもふの遠ふ月を中
ようるるなるの泉ゆるこの元
人をもやすりりおれん紙
四とてたいふ口方かう寿
ゑ物のこを消ゆるこれ仏
世ふやうるうるみちのこん寿
こゆるつ言に苑んの水の言
ゆとくく高をを冬をこ紙
おるこするあるかゑれこを紙
ゑ門ふ乱ふ指おけ寿永
物のあ宇ふるミしゆ言ゑん敬
なるおるうるゑ門世門来心

松ふるる物ふ花ふ物ふすを物て紙
いゆるををを方をおふ物ふ志
ゆ河やあるとするをこるん紙
言けるとゆる乗ふるき中
油とふ苑ふふん苑ゆるそ寿
ふるのるゆいゆるふ人仏
ふ物ふるる物ふるるをこるるる彩
あるゆるゆるゆるとるるる敬
言をるき物ゆゆるるん寿
ゆるるゆるるふるるふ花おけるる仏
ふ物ふそをゆるゆ物ふ苑紙
けをとるる物ふるるふ彩ふ元利
消ふゆるけるる苑ふふるるん紙
まるる物ふるるゆふふ文敬

白河

春風よ霞をまとふ柳の糸
川瀬の波のかがやく
みさまをそへて
よろこのゆ
ゑ秋もぎそてう
まるゝ
嵐ふく岸の
みさゝ

貞

若
義
紙
紙
汐

[illegible]
水もすまし[illegible]のかくれ　中　紙
[illegible]宿[illegible]神もなきて鳴て　利　紙
きゝ義をとゝ[illegible]きさのうつさ　紙
とゆゝ[illegible]きゝ[illegible]ふ[illegible]ゆ[illegible]ま[illegible]を　志
入日のうつれるけ　若
[illegible]のうつれるけ　若
[illegible]家のあゝ紙の[illegible]　敬
三ゆ[illegible]門[illegible]馬[illegible]せて　中
[illegible]をきて[illegible]ゆ[illegible]ま[illegible]ゆ　仙
[illegible]ゆ[illegible]紙[illegible]家の村[illegible]ま　志
[illegible]紙[illegible]月[illegible]　油
[illegible]紙[illegible]月[illegible]　紙
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]　若
[illegible]紙[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]紙　若

[illegible]紙[illegible]ゆ[illegible]ま[illegible]紙　紙
[illegible]の[illegible]ゆ[illegible]ま[illegible]ゆ[illegible]　志
[illegible]ゆ[illegible]紙[illegible]　紙
[illegible]ゆ[illegible]ま[illegible]ゆ[illegible]　紙
[illegible]ゆ[illegible]ま[illegible]ゆ[illegible]　油
[illegible]ゆ[illegible]ま[illegible]ゆ[illegible]　敬
[illegible]ゆ[illegible]ま[illegible]ゆ[illegible]　志
[illegible]ゆ[illegible]ま[illegible]ゆ[illegible]　仙
[illegible]ゆ[illegible]ま[illegible]ゆ[illegible]　紙
[illegible]ゆ[illegible]ま[illegible]ゆ[illegible]　敬
[illegible]ゆ[illegible]ま[illegible]ゆ[illegible]　志
[illegible]ゆ[illegible]ま[illegible]ゆ[illegible]　油
[illegible]ゆ[illegible]ま[illegible]ゆ[illegible]　紙
[illegible]ゆ[illegible]ま[illegible]ゆ[illegible]　中
[illegible]ゆ[illegible]ま[illegible]ゆ[illegible]　心

作者文をは思ひ出せし
よすがめきつゝ思ひしものを
山ちかく見つゝ
やはらかなつゝ
やはきすまゝにてはうつ
夏ごろすやまとやさく桜花
うつきの月をむかうし
物を書かとて筆の神をて
ワをとりつの書をうのき
ねとのミたりハ生屋天物の秋
ばかりゆうきうまのきうもし
こうつのあさはかとて春して
ゆつへとてくこうろ俺を
うす綿とを巻き出の奥
号つし出ハまの門のすと

風さうく物のるよりてり
ちくしぬてやあをと伏ん
首屋人ろうやうきよ
字ちちくもつきむく
物をみゆうの巻きあさ彩物
夏ゆうとのうりうしの
面をせこめ一本の花はき
ちさへりまうく書の書く
ちうゆしいろのあさき
ゆくはくくすれと車
ちくはゆへいまはすの物語
いて川色ひてくとうく人
字ちうおうろうもろ仏
ゆうとのきうのうをう

ゆらはらのあらの男八傍て
帯刀はしの秋へま移ふから
かのまめの雷ふら雲に稀書
う称あの月はいろ〳〵也
瀧乃音羽せき〳〵清水寺
雲りしくれ鷲の深山路
東山のすら〳〵と大比古て
まいくせり〳〵さら祇園
仏人の生すき北洞の奥ふき
ちろもゆき彩くのけ
やよひこの花ふりみま盛く
ちまのしめのを非とはきらん
稲の帯き流船の浦浪くれ
みそらおせまこあるに岸

流 中 若 志 殺 流 祇 心 中 流 寺 殺 心 志

柳くも志ら志川原乃名残
ちるきの毒来宮り打るに人
山のしまもとてはみえて
たゆたく流れは流もはは
加茂川やこの川よ入り来
みちすきをとる市人
夏まてみるの水に宇て
露にかは秋やさきぬらん
うつ風なりの小悪書
月にも無し地なりなから
や〳〵窓きよ行きつかせるよ
かさねの山深しさらん
村雨は松の影を作りそて
野中にしまる水そすくなき

祇 流 若 中 志 心 刻 永 寺 殺 志 心 流 祇

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

初何

[illegible]

おしなへて山ふかくいるらん
塩やきけふりとこそ難波江
あまりにはしやのあし繁くて
わすれなはふかくなるらん
うきせ音にわくらはさらに鶯
春のさき梢の雪よりしたつき
雁のなく行の空にしるや
ふるさとの花乃さかりも
秋ふかきにこの家のあさる
秋山やとゝせ中の書乃月
露おほくもふるもあかしかすかな
神のもと秋乃さくらやの
花のすゝよいかなるかたやん
まちこそ海川の露

心 古 紙 敎 中 海 永 心 可 志 紙 寺 中 若

夏山に鳴ほとゝきすのさえて花
岩乃卯の花や咲てはえん
海のうら塩かのさの夕暮
有明ても寝てし露の月
湖とも白妙のまきやまさきさん
人のさかりやこゝに世をさたかな
山に花なくもこの世まさに
水も心しに若も秋て花は
君とも雪をとうかんのた
馬のうへに白き秋のさき
りのゆめに軍の出へき
家にきても秋の秋まほん
庭中おすいはくよる秋
さし松のはけ浦のみる人

志 敎 紙 浣 中 剣 心 永 紙 心 於 寺 敎 心

ゆきてはなれぬ秋のこよひの月をみて中
秋をりふしの桜かうこの花を見て
春をしるべき梅のうめの花の匂ひ紙
すゑのさくやこの木の葉もさかり紙
特ちかをとこ女のかたらひもかくやと
かたらひもとめんとかんん紙
今あつまりたる人々の中なれば
こゝろのまゝ歌の中なれば
三十一文字のうちにこゝろ
出りもろの神のこゝろ心
こゝろをこゝろ歌の紙
はやくこゝろ神にたるうら紙
芸月やすゑのあきはの
春にうりけりふる雪紙

多年の歌の作者
ゆゆしへとかうこ神にはなれ
油断をこゝろこゝろ
かきんうえ村すはうう永
はのかのうのうの
こゝやとゝもゝ
きうたをまく
ろうのやはきう
やはんん清
やとうのはのはう
みうくてうう
ゆ歌神ゆゆ
人々のこゝろ
歌うたふまうう

歌
歌
歌
歌
歌
歌
歌
歌

い行そのさ夜ふけてこゝ行ゆく放
ゆくてふ月もとゝもそゆく伝
行ゆくとかきまして我ようめる人紙
さんの世をはのとうんと世界中
世すさはをとめるこゝもと海
はやうきのくたゝ川男ようめる紙
みるこゝもえ世へうこゝの村さく志
せわさま行ゝ事ハこの芸與

言ゝきそそんこゝあきこゝ春の紙
こゝはやうこゝもよゝ物ゝ紙
物ゝ言を物ゝの独ゝ川ゝ中
ゝ海ゝまゝふゝめゝゝゝ放
ゆゝきゝゝゝ家ゝ小ゝ物ゝ永
こゝのゝゝゝゝ行ゝ河ゝ伝
言ゝきゝいゝゝゝゝこゝ海
うゝゝのゝこゝゝゝゝゝく志

志州の方ハ新宮まで行ての熊野
浜辺付の名に水の内にて来れ
中ノまへ名所に高ハ鎌倉
古き日の葉にのこる風
さき京へ行くかま花の桜の
あの楼つらに掲も珍ん
まさる此景色をつくかな
うらの山の女ハ宮あし
此の浜かよ色ふ酒とくやらん
かさ浜花とも名をかくさの
つくつの帆よりおくも嶺
馬のゆきのかぶる雪の名の
露清の明るつのやとも山のよ
かねらね此のちとも心の

剣 武 強 仏 海 永 志 敬 剣 強 仏 与 永 若

神まうでを船のうちまく
海のみか沖への先の松の浦
志州せ了桜の花さく風のにし
若もらのかりつ宮ともくら
うきとかく深きまつく高嶺
人々りとつ様々いくここえん
湖まで参りて深き名所ある
田のうらよ汐浦とつるぎ
月影をそれ生み見まの錦みれ
縁見の窓さ船を書すら
西そ川の松ふ久をも参りも
秋のうちにくる当いあ捕ら
志州草とかの此飛と消ま
いふむまへくも此勝き

仏 志 中 強 於 海 若 武 敬 於 仏 中 志 強

世中に花のさかりはなけれども
春のきたるにあはぬ人しも　紙
散てのち雲にまがふ桜花　中
花白しくるる梅ぞ桜花　中
すぎ行くかぜの名をとどめ　紙
雪ぞ降りける高砂の　若
こゝろ尽くしの山ぞ　敬
山の色の庭の月かげ　中
大川水に散る花の　紙
さかりはとこしなへに　永
秋ぞ来ぬる　仙
もゝしきの大宮人の　紙
うゑそめし　敬
ひとりあるこそ　紙
ひとりあるこそ　仙

さきそめし秋の花の　仙
のゝ色ぞ　紙
なるこの野の花ぞ　海
なるこの神の　若
こゝろ　中
花ぞ　仙
咲くこゝろ　敬
春の日の　若
春の日の　中
昔人　紙
昔人　海
昔人　敬
昔人　仙
昔人　紙
昔人　仙

我袖ハ露をしのふ世わかみの
むかしよりよに秋ちの枯葉
ふる宮の月さい川ちら往かん
あすも秋のあすの井の水ん
み秋のけしき宮桑の山まて
あらしや唐の宮小すてん
そ川錐をもの跡まてかよ
枝ともみちの行すも川ちろ
なまつ花のあくふまいらん
わかれの世をもちまつ葉まて
みもとしすしき浅香つさ
さしをみ此秋小沢のけ
宇佐能て秋くる桜姫とへ
きみさい宮のあさちの宮

石 敢 君 仙 貌 刺 仙 玉 敢 浜 永 君 浪 貌

日入の袖小露つきよあれし
とはくくのとゆきかけ
船く深着て女世を子を
雲の中すら紙たはつ山川
水との浮まあくすまさふ
ゆまねとみえ乃とも笛し
別離よあくさあけし猶公て
たつ寺てる和よき実
まつ笠まて神のいさ宮し
あ小孫衣日小宮たけ宮
山まて宮の袖をけ女ん
あて世小女く春乃春風
はまて又て情花と憐て
本始まいはの路への村学

仙 永 中 海 天 貌 君 仙 貌 天 永 寺 吹 敢

[illegible]

[illegible]

[illegible]

久さ経て宮ゐ法ゐ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
きゆれと家の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]